

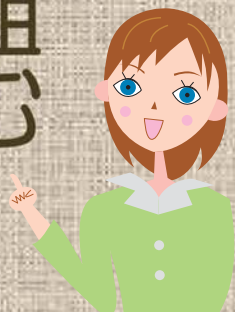
FD NEWS

～名城大学のFD (Faculty Development) とは、
学生が本気で取り組む学びを教職員が組織的に考える取組みの総称です～

contents

1. 平成21年度後期授業満足度アンケート結果報告
2. 第11回FDフォーラムでの発表内容から
先生たちの教育改善の取り組みを紹介します
3. FDフォーラムでのディスカッション
4. 大学院教育についてみんなで考えていきましょう
5. 学生へのメッセージ

学生が本気で取り組む
「学びの方法論」を考える



平成21年度後期授業満足度アンケート 結果報告

調査概要

アンケートへのご協力ありがとうございました



調査のねらい

- ・学生の授業に対する満足度を知り、改善点・要望を把握します。
- ・教員の授業に対する意識を調査します。
- ・学生と教員の意識のギャップを確認します。

対象科目

平成21年度後期に学部 of 授業を担当する専任教員および非常勤講師を対象とし、担当授業のうち、最も履修者が多い講義科目において実施しました。講義以外の科目（体育科目、リレー方式で開講されている科目、実験・実習・演習等）は除きました。

方法

- ・マークシート用紙にて回答しました。
- ・学生・教員ともほぼ同内容のアンケートを、同時に実施しました。

【学生用】

選択式質問21問

記述式質問1問

【教員用】

選択式質問17問

記述式質問1問

実施期間

平成21年12月7日（月）

～ 12月19日（土）

実施率

733設定授業中 676授業で実施 実施率92.2%

開講学部等別回答者数

開講学部等	履修者数（人）	アンケート回収数（枚）
法学部	12,327	4,755
経営学部	7,170	3,089
経済学部	5,937	2,029
理工学部	22,359	13,666
農学部	6,032	4,195
薬学部	4,250	3,442
都市情報学部	4,132	1,989
人間学部	2,888	1,939
教職・学芸員課程	969	663
全学共通教育部門	3,598	2,181
合計	69,662	37,948

学生が本気で取り組む学びについて考えるために、
まずは、学生の自学自習時間をみてみましょう



学生のみなさんからの生の声

授業満足度アンケートの自由記述から、学生が考えるよい授業とは何かを知ること、授業づくりを考えていきたいと思ひます



学生にとってよい授業とは何か？

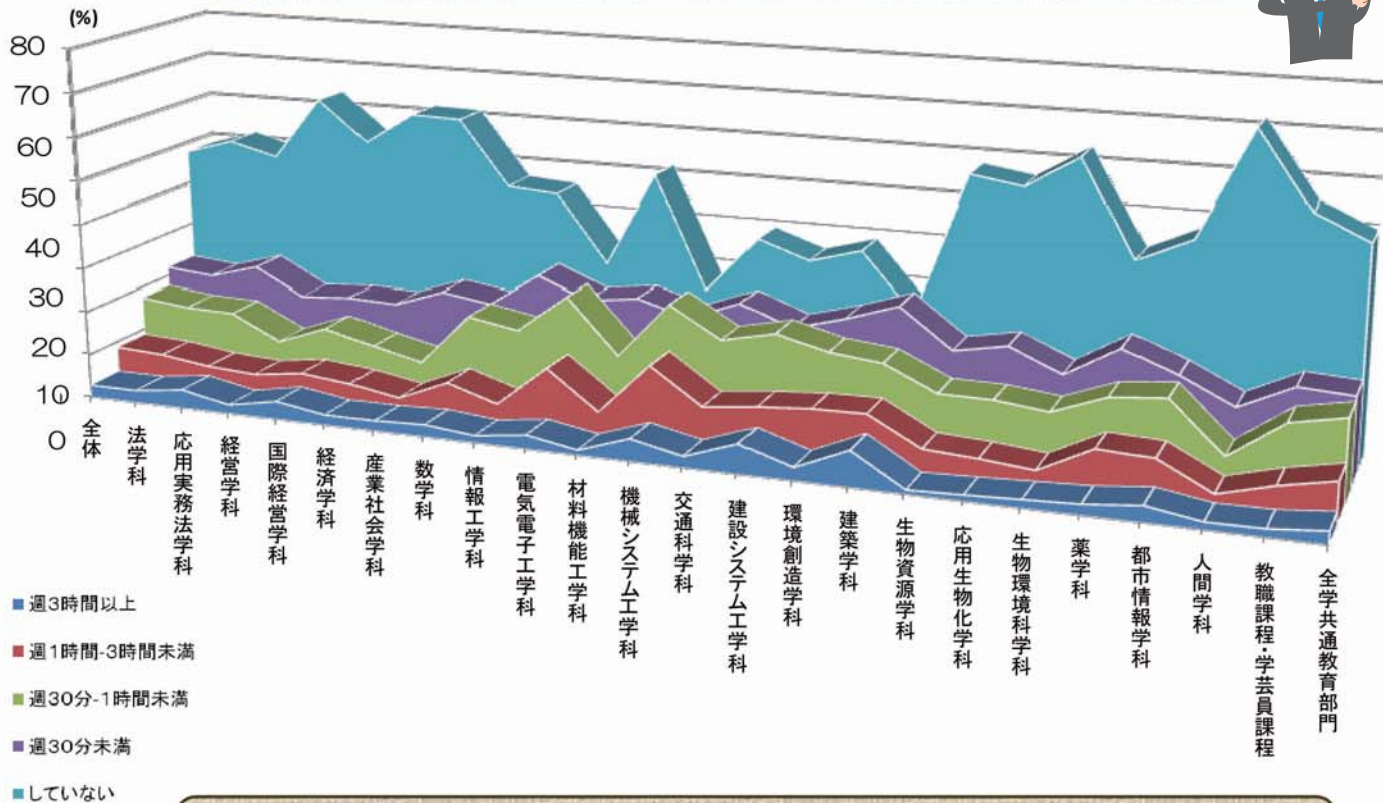
- ・理解しやすく、テンポのよい授業
- ・就職先、社会で役に立つ授業
- ・学生と教員のキャッチボールのある授業
- ・自分でノートをまとめ説明できるようになれる授業
- ・時代をリードする最先端の授業
- ・具体例などで、ひきつけられるような授業
- ・遅刻や私語に厳しいメリハリのある授業
- ・15回の授業において、明確な知識が一つでも身につく授業
- ・私語がなく、教員が熱意を持っている授業
- ・教員が学生のことを理解しようとしている授業
- ・「どうしてこうなるんだろう？」と考えながら、新しいことを学べる授業

etc.

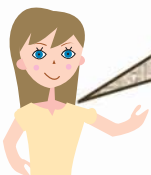


学生の自学自習時間

開講学科等別自学自習時間の比較
※1授業に対する1週間あたりの勉強時間（授業時間除く）



1単位に必要な勉強時間は授業を含めて標準45時間だから、もっと自分達でしっかりと勉強しなければならないんだね



学生が本気で学びに取り組むために・・・

第11回 FDフォーラムでの発表内容から先生たちの

FDフォーラムとは、先生、職員、学生による、教育改善を図るための相互研修です。ついで考える}をテーマに、教職員、他大学関係者等201名が参加し、教育改善の事例

報告1.講義室における協同学習

人間学部：伊藤康児先生

協同学習の手法を導入している授業では、3人1組のグループでそれぞれに役割を決め、各個人に与えられた責任を果たすことを大事にして授業に取り組んでいる。授業の終わりには、良かった点や改善する点を紙に書き、参加者同士で確認を行うなど、コミュニケーション力の習得に力を入れている。



講義室における横並びの協同学習の取り組み



協同学習とは、学生達が多くの人と力を合わせて学んだり、仕事に取り組むことで、1人で取り組むよりも学習の質を高めることを目的とした学習方法。



講義室における横並びの協同学習の取り組み

報告2.英語多読による自律学習の支援



多読専用図書



大学教育開発センター：只木 徹先生
英語多読学習法を導入し、様々な授業づくりの工夫を行っている。学生からは、楽しく学んでいる、英会話を耳にしても要点が掴めるようになったなど、高い学習満足度が得られている。また、先生同士でも授業の工夫や教材づくりの知恵を出し合いながら英語が好きになる授業づくりに力を入れている。

英語多読法とは、わかりやすい本を選び、できるだけ辞書は引かずに、分からないところは飛ばして前へ読み進めていくという英語学習法の一つ。



多読ルーム

教育改善の取り組みを紹介します

いろいろな工夫された授業があるんだね

本年度は2009年11月6日（金）に行われ、{学生が本気で取り組む「学び」の方法論に
の報告、ディスカッションが行われました。

報告3.フィールドワーク教育による汎用的技能修得

経済学部：渡辺俊三先生

フィールドワークは、学生からの人気が高く年々参加者が増加している。国内外で現地調査を行い、参加者で協力して調査報告書を作成している。学生からは、アンケート調査の難しさ、インタビューで問いかけたときの緊張感は強く感じたが、グループの仲間と楽しく学べたなど、授業内容の充実度に高い評価が得られている。



事前調査の取り組み

フィールドワークとは、テーマに関する下調べや、現場を訪れて対象を観察したり、アンケート調査を行うなどの調査技法。

名城大学では、歴史や政策等の理論を学ぶ科目と、現実とのつなぎの科目と位置づけている。



枝打ち伐採の体験を通じ森林保全の課題を考える

報告4.ICT支援によるPBL学習

PBLとは、「Problem Based Learning」の略で、ケースを提示し、その中にある問題を識別して調査・自己学習をし、グループ討論をして結論を導くことで、学び方を学ぶ主体的な学習方法。

ICTとは、コンピュータなどのシステムの総称。



スモールグループディスカッションの取り組み

薬学部：大津史子先生

薬剤師として考えなければならない、気づかなければならないという授業づくりに力を入れている。ICT環境を使ったレポート提出は、学習過程の振り返りにも役立っていて、「学べば学ぶほど何も知らなかったことに気づき、気づけば気づくほどまた学びたくなる」という感想が象徴するように、95%以上の高い授業満足度が得られている。



演習の様子



学びの方法論を考えています

学生が本気で学びに取り組むために・・・

FDフォーラムでのディスカッション

FDフォーラムでは、工夫された授業の事例をもとに、先生たちがどのようなことに力を入れればよいかなどについて、語り合う場として、グループに分かれ、ディスカッションを行いました。最後は各グループで出された考え方が発表され、「学生が本気で学びに取り組むために必要な要素」として、集約されました。



学生が本気で取り組む

楽しい授業

全員がチャレンジできる授業

教師の対話力がある授業

社会人基礎力を高める

学習課題

学生自身に立ち位置を気づかせる

生の現実を知らせて関心を持たせる

先を見越して今の課題を限定する

やさしい副教材 基礎学力不足を補う

道具 学習ポートフォリオ

エイジミキシング

はじめのルール作り

教員の働きかけ

個人の役割の明確化

場の雰囲気作り

フリーライダーを作らない工夫

学習の方法

動機付けを伴う体験学習

コミュニケーションを媒介にした学習

これらの要素を授業に取り入れてはどうか？

色々な
アイデアが
出てきたんだね



T&L CAFE

Teaching & Learning CAFEの略で、コーヒーなどを飲みながらリラックスした雰囲気、授業や大学教育に関することを気軽に語り合う場です。今年度のT&L CAFEは2009年12月17日（木）、ランチの時間を活用し、28名が参加して行われました。



T & L CAFEの風景

先生たちの授業に対する思い

- ・大人数授業では一人一人の顔の表情などを見ることができず、大変である
- ・ゼミ運営で苦労している
- ・学生の要望をどのように採り入れたらよいだろうか



有意義でした！
ぜひ続けてほしい！！

T&L CAFEでは、授業での悩みや課題、授業の工夫を共有するざっくばらんな場として今後とも定期的の実施していきます



語り合う場を設けています

大学院での学びを考える



大学院教育についてみんなで考えていきましょう

本学では、これまで学部教育を中心に、教育の改善を図るための研修・研究を行ってきました。昨今、大学院進学率の向上、多様な背景をもちながら学ぶ社会人大学院生の増加などから、大学院教育の真の実質化が問われています。平成21年度から、FD委員会では本学の大学院教育について考える新たなテーマを掲げました。

今年度は、本学の大学院教育の特色ある実践事例を集め、研究方法や先生の指導方法の工夫など大学院教育で特に大切にしていることなどを広報して、全学の充実した大学院教育を目指します。

そこで、最初の取り組みとして これぞまさしく大学院だと、研究活動で表彰された大学院生を輩出した研究室で指導している先生方に取材を行っています。

大学院生の方にも、研究上の苦労や、先生方からの指導で意欲が高まった経験などをインタビューしています。どうぞご協力をお願いいたします。

この成果については、FDニュース・名城大学ウェブサイト等で情報発信していきます。

大学院生のみなさん！ 充実した院活動を可能にする環境づくりに、私たちは努力しています。

★大学院教育に関する情報をお聞かせください！

研究指導や大学院生活の中で

- ・やる気になった瞬間
- ・自分が成長したと感じた経験
- ・他の大学院生にも伝えたい大学院の授業など

引き続きインタビューさせていただこうと考えていますので、ご協力ください。



名城大学 FD委員会
大学院チーム

連絡先：大学教育開発センター
神保・難波

(052)838-2033

edcenter@comails.meijo-u.ac.jp

学生へのメッセージ

学ぶという言葉は学生の皆さんにとってどんな意味をもつのだろうか。普段の何気ない会話であれば、多分、学ぶのは学生の本分、教えるのが教師の仕事ということで済むでしょう。しかし大学ではこの言葉は「探究する学び=Study」として大事にされることになります。そこでは、学生と教師はともに「探究し続ける」存在であり、「教えるー学ぶ」の関係を越えるものになります。教師から知的刺激を受け、面白さを知り、自ら調べ、仲間と議論をし、人前で発表し、新たな知的世界を形成する、という探究のプロセスが学びの本質だと私は考えます。今回のFD Newsはそのような「学び」の意味の転換を求めています。

FD委員会 委員長 池田 輝政

平成22年3月

発行：名城大学FD委員会

編集：名城大学 大学教育開発センター

住所：〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501

電話：(052)838-2033

FAX：(052)833-5230

HP：<http://www.meijo-u.ac.jp/edc/index.html>
